

★は重点政策

【全体目標Ⅰ】科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実

最終アウトカム	中間アウトカム	施策	H30(2018) の取組	R1(2019) の取組
1 がんに罹患する県民が減っている 数値目標	(1) がんの発生リスクがあると科学的に実証されている生活習慣等が改善されている 数値目標	★[1] 各圏域ごとにごがん罹患状況などから重点的に予防に取組むがん種を決定し、そのがんのリスクとされている生活習慣の改善に取組む(県、市町村) 数値目標	<ul style="list-style-type: none"> 圏域がん対策推進事業を実施 重点的に取り組むがん種 松江圏域：大腸がん、雲南圏域：大腸がん、出雲圏域：胃がん、肺がん 大田圏域：5大がん、浜田圏域：男性肺がん、女性乳がん、 益田圏域：子宮頸がん、隠岐圏域：肺がん、大腸がん、乳がん 	<ul style="list-style-type: none"> 圏域がん対策推進事業を実施 重点的に取り組むがん種 松江圏域：大腸がん、雲南圏域：大腸がん、出雲圏域：胃がん、肺がん 大田圏域：5大がん、浜田圏域：男性肺がん、女性乳がん、 益田圏域：子宮頸がん、隠岐圏域：肺がん、大腸がん、乳がん(県・市町村)
	(2) (肝炎ウイルス対策) 検診中 数値目標	[2] 肝炎ウイルスに対する正しい知識や肝炎ウイルス検査の必要性について普及啓発を行う(県)	<ul style="list-style-type: none"> 日本肝炎デー(7/28)及び肝臓週間(7/23~7/29)がある7月を重点普及啓発月間として啓発を実施 肝炎の正しい知識や県による無料検査の実施、県ホームページへの掲載や松江城ブルーライトアップによりPR 出張肝炎無料検査・普及啓発イベント(出雲保健所と島根大学合同で開催) 街頭キャンペーン(イオンモール出雲)を患者団体と合同で実施 県民だよりへの掲載 	<ul style="list-style-type: none"> 日本肝炎デー(7/28)及び肝臓週間(7/22~7/28)がある7月を重点普及啓発月間として啓発を実施 肝炎の正しい知識や県による無料検査の実施、新聞や県ホームページ等への掲載によりPR イオンモール出雲にて、街頭キャンペーンを患者団体と合同で行うとともに、併せて出張肝炎無料検査を実施 市民公開講座(島根大学医学部附属病院主催、くにびきメッセ)(県)
	—	[3] 子宮頸がん予防ワクチンの接種勧奨やヘリコバクター・ピロリ対策、HTLV-1対策について国の動向をなど注視し、適切な対応に努める(県、拠点病院)	<ul style="list-style-type: none"> ○子宮頸がん予防ワクチン 国は平成25年6月、ワクチン接種後にワクチンとの因果関係が否定できない副反応事例報告があったため、事例を検証し適切な情報提供ができるまでの期間、積極的な接種勧奨を一時的に中止 県内における予防接種後に生じた症状の診療については、島根大学医学部附属病院を協力医療機関に選定 ○HTLV-1対策 平成22年度から、各保健所及び拠点病院等に窓口を設置し、県民からの相談に対応 	<ul style="list-style-type: none"> 子宮頸がん予防ワクチン 国は平成25年6月、ワクチン接種後にワクチンとの因果関係が否定できない副反応事例報告があったため、事例を検証し適切な情報提供ができるまでの期間、積極的な接種勧奨を一時的に中止 県内における予防接種後に生じた症状の診療については、島根大学医学部附属病院を協力医療機関に選定 HTLV-1対策 平成22年度から、各保健所及び拠点病院等に窓口を設置し、県民からの相談に対応(県)
2 がんに罹患した場合でも早期発見・早期受診につながっている 数値目標	(3) 科学的根拠に基づくがん検診(対策型検診)が精度管理の下で実施されている 数値目標	[4] 県生活習慣病検診協議会において検診の高い精度管理や事業評価を徹底する(県)	—	<ul style="list-style-type: none"> 各種がん部会を実施 胃・大腸がん部会(5/16) 肺がん部会(5/15) 乳がん部会(5/28) 子宮がん部会(5/23)(県)
		[5] がん検診従事者講習会やがん検診担当者会議を充実させる(県)	<ul style="list-style-type: none"> 島根県環境保健公社に委託 乳がん検診精度管理乳がん検診精度管理講習会(3/9) 大腸がん従事者講習会(3/17) 担当者会議(6/22) 担当者研修会(9/9) 	<ul style="list-style-type: none"> 島根県環境保健公社に委託 乳がん検診精度管理向上講習会(4/20) 担当者会議&研修会(6/27) 胃がん検診従事者講習会(2/16) ※コロナで中止…子宮頸がん検診従事者講習会、乳がん検診精度管理講習会(県)
		★[6] 国の指針に基づいたがん検診の実施および精度管理の向上に取り組む(市町村)	<ul style="list-style-type: none"> 市町村または圏域単位でがん検診の事業評価や精度管理向上に関する検討会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> がん検診担当者研修会(6/27)で、国立がん研究センターから講師を招き「対策型検診としてのがん検診の在り方について」講演会実施(県・市町村)
		[7] 検診技術の質の向上を図る(検診機関)	<ul style="list-style-type: none"> 読影委員会研修会開催、第三者機関が実施する精度管理調査に参加(島根県環境保健公社) 読影委員会開催、専門技師及び認定医の資格取得、学会への参加、施設認定の取得、精度管理委員会開催、外部精度管理への参加(島根厚生農業協同組合連合会) 講習会参加(ヘルスサイエンスセンター島根) 	<ul style="list-style-type: none"> 各種がん検診の読影・判定について、技量の維持・向上を図るために設置した読影委員会研修会を医療機関、行政機関の医療従事者や担当者等に対して検診の技術・知識などを習得する機会として提供した 以下の研修会を実施した(2月以降は新型コロナウイルス対応のため一部中止) 職員の技術に係わる精度の保証を確認し、維持向上を図るために日本医師会、結核予防会、全国労働衛生団体連合会など第三者機関が実施する各種の精度管理調査に参加し、精度管理に努めた(環境保健公社) 読影委員会開催(乳がん)※肺、胃がんは新型コロナウイルス感染防止のため中止(資料提供のみ) 学会への参加 研修会への参加

			<ul style="list-style-type: none"> 外部精度管理への参加（JA島根厚生連） 学会・講習会への参加 外部精度管理への参加（ヘルスサイエンスセンター島根）
	[8] 効果的ながん検診を実施するためのデータ収集・分析を実施する（県）	・がん検診の事業評価や効果的な事業の企画立案のために必要な各データの集計・分析・提供を実施。	・がん検診の事業評価や効果的な事業の企画立案のために必要な各データの集計・分析・提供を実施（県）
	★[9] 各圏域ごとにごがん死亡状況などから重点的に取組むがん種を決定し、そのがん検診の精度管理を強化する（県、市町村）	・圏域がん対策推進事業を実施	・圏域がん対策推進事業を実施（県・市町村）
2次予防	[10] 検診の実施把握及びその結果から検診体制の整備を検討する（県）	・島根県がん検診実施体制調査を実施	
2 がんに罹患した場合でも早期発見・早期受診につながっている	(4) 働き盛り世代の受診率が向上している	・医受診勧奨リーフレットを作成、かかりつけ医からの受診勧奨を実施 配布先：419医療機関	・医受診勧奨リーフレットを作成、かかりつけ医からの受診勧奨を実施 配布先：293医療機関（県）
数値目標	数値目標	<ul style="list-style-type: none"> 健診機関が実施する集団検診にごがん検診をセットし、チラシにより案内（被扶養者） 協会けんぽ島根支部において、がん検診受診啓発のチラシを作成し、案内（被扶養者） 特定健診とがん検診が同時に受診できる「特定健診セット」を県内26健診機関と契約し、案内（被扶養者） 特定健診にごがん検診をセットした「生活習慣病予防健診」を案内（被保険者：35歳以上） （全国健康保険協会島根支部（協会けんぽ）） 	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診にごがん検診をセットした「生活習慣病予防健診」の実施（被保険者：35歳以上） 協会けんぽが主催する集団健診に、※市町村のがん検診をセットして実施（被扶養者）※調整のうえ実施可能だった市町村のみ 協会けんぽ島根支部において、特定健診の案内パンフレット内にごがん検診の受診啓発と市町村の担当窓口を記載（被扶養者） 特定健診とがん検診が同時に受診できる「家族のためのがん検診バック」を県内26健診機関で実施（被扶養者）（全国健康保険協会島根支部（協会けんぽ））
	★[13] 各圏域ごとにごがん死亡状況などから重点的に取組むがん種を決定し、そのがん検診の受診率向上対策を強化する（県、市町村）	・圏域がん対策推進事業を実施	・圏域がん対策推進事業を実施（県・市町村）

【全体目標Ⅱ】患者本位で将来にわたって持続可能なしまねらしいがん医療の実現

最終アウトカム	中間アウトカム	施策	H30(2018) の取組	R1(2019) の取組
<p>がん医療</p> <p>3 県内どこに住んでいても安心してがん医療が受けられている</p> <p>数値目標</p>	<p>(5) 拠点病院体制を維持し、患者が適切な医療を受けている</p> <p>数値目標</p>	<p>★[14] 拠点病院体制維持のために必要な施策を講じる(県)</p> <p>数値目標</p>	<p>・がん診療連携拠点病院機能強化補助金の交付 対象病院：松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院 補助率等：国1/2、県1/2 補助額：31,157千円(3病院)</p>	<p>・がん診療連携拠点病院機能強化補助金の交付 対象病院：松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院 補助率等：国1/2、県1/2 補助額：29,350千円(3病院)〈県〉</p>
		<p>★[15] 都道府県拠点病院として、拠点病院間の連携体制強化、人材養成及び医療機能の向上による全県のがん診療の質の向上を図る(島根大学医学部附属病院)</p>	<p>・島根県がん診療ネットワーク協議会の開催 がん相談員実務担当者会(6/11、1/21) がん診療部会(11/12) がん登録部会(11/13) 島根県がん診療ネットワーク協議会(3/26)</p>	<p>・島根県がん診療ネットワーク協議会等を開催し、病院間の連携体制、医療機能の質の向上を図った ・また、各分野における医療従事者研修会を開催し、県内病院の人材養成を図った 島根県がん診療ネットワーク協議会(2/5) がん相談員実務担当者会(6/10、1/23) がん診療部会(11/19) がん登録部会(12/20)〈島根大学医学部附属病院〉</p>
		<p>★[16] 地域拠点病院として、地域の病院・診療所等と連携を図り、地域医療提供体制を強化する(松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院、浜田医療センター)</p>	<p>・緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会、地域連携講演会(7/19)、在宅緩和ケア多職種カンファレンス講演会(10/18、3/4)、公開セミナー(11/1)の開催(松江市立病院) 緩和ケアシンポジウム、化学療法研究会の開催、五大がんクリティカルパスの活用(松江赤十字病院) がんバスの活用(県立中央病院) 他施設合同会議の開催(浜田医療センター)</p>	<p>・緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会を開催し、地域との連携推進のために院内・外の医療・介護等の関係者(ケアマネージャー協会、在宅医療・在宅介護連携支援センター(社協))間で事例検討・情報共有・意見交換を行っている ・松江市立病院主催の研修会 がん診療連携拠点病院医療従事者研修会(7/25開催) 在宅緩和ケア多職種カンファレンス研修会(R2・2/20開催) ・スムーズな地域連携に向けた「診療のご案内」の作成・配布 ・地域連携バスの活用(がんバス、緩和ケアバス) ・松江保健所主催の松江圏域緩和ケア事例検討会への参加・協力(松江市立病院) ・緩和ケア地域連携検討会(研修会)(1/30)、化学療法研究会(1/16)の開催(緩和ケアシンポジウムを3/12に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大により中止) ・五大がんクリティカルパス、緩和ケア地域連携バスの活用 ・地域の診療所を訪問し、がん患者の在宅療養の課題等を共有 ・新規開業した診療所に訪問 ・がんバスに関する勉強会の開催 ・病院と地域医療機関が連携し、治療可能な臓器がんの発見、治療成績向上を目指す、臓器がんプロジェクトへの協力(松江赤十字病院) ・がんバスを用いて、患者の便宜を図る(県立中央病院)</p>
		<p>★[17] 益田赤十字病院の拠点病院とのグループ指定により地域がん診療病院指定に向けた支援を行う(県)</p> <p>数値目標</p>	-	-
		<p>[18] (再掲) 都道府県拠点病院として、拠点病院間の連携体制強化、人材養成及び医療機能の向上による全県のがん診療の質の向上を図る(島根大学医学部附属病院)</p>	(再掲 [15])	(再掲 [15])
		<p>[19] (再掲) 地域拠点病院として、地域の病院・診療所等と連携を図り、地域医療提供体制を強化する(松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院、浜田医療センター)</p>	(再掲 [16])	(再掲 [16])

<p>がん医療</p> <p>4 患者やその 家族の痛み やつらさが緩 和され、生活 の質が向上し</p> <p>数値目標</p>	<p>(6) 拠点病院と地域の病院 等の機能分担による連携強化 が図られている</p> <p>数値目標</p>	<p>[20] 拠点病院から地域の病院へ患者が 紹介されるように支援を行う（県、島根 大学医学部附属病院）</p> <p>数値目標</p>	<p>・島根県がん診療ネットワーク協議会がん診療部会（11/12）</p>	<p>・地域連携バスを活用し、患者が望む地域医療機関への紹介を行なった ・外来通院患者からの在宅療養の相談に対し、地域の病院または在宅診療 支援診療所の紹介、連携を実施した（島根大学医学部附属病院）</p> <p>・島根県がん診療ネットワーク協議会がん診療部会（11/19）〈県〉</p>
		<p>★[21] 地域の病院のがんチーム医療の レベルアップを行う（県、拠点病院）</p> <p>数値目標</p>	<p>・がんチーム医療づくり推進事業委託 対象病院：雲南市立、町立奥出雲、飯南、公立邑智、隠岐、隠岐島前 （6病院） 委託金額：2,554千円余</p>	<p>・がんチーム医療づくり推進事業委託 対象病院：雲南市立、町立奥出雲、飯南、公立邑智、隠岐（5病院） 委託金額：1,711千円余 ※町立奥出雲は新型コロナウイルスによる中止等で実績なし〈県〉</p> <p>・地域のがんチーム医療のレベルアップを目的とした研修を実施するた め、国立がん研究センターで開催される指導者養成研修に職員を参加さ せ、指導者としてのレベルアップを図った（島根大学医学部附属病院）</p> <p>・松江保健所主催の松江圏域緩和ケア事例検討会への参加・協力 緩和ケア研修会（がんに携わる医療従事者のための研修会）（9/1開 催）</p> <p>・がん診療連携拠点病院医療従事者研修会（7/25開催） 在宅緩和ケア多職種カンファレンス研修会（R2・2/20開催） ELNEC研修会（9/21・9/22開催）（松江市立病院）</p>
		<p>[22] 診療所や介護施設等を含めた医療 機能分担が図られるための事業実施を検 討する（県、拠点病院等）</p> <p>数値目標</p>	<p>・緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会を開催し、院内外の医療介護 等関係者間で情報共有、意見交換を実施（松江市立病院）</p>	<p>・緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会を開催し、地域との連携推進 のために院内・外の医療・介護等の関係者（ケアマネージャー協会、在宅 医療・在宅介護連携支援センター（社協））間で事例検討・情報共有・意 見交換を行い、地域連携における課題の共有・役割分担の確認を行って いる（松江市立病院）</p> <p>・緩和ケア地域連携検討会に多数の介護支援専門員の参加を得て、在宅で の看取りにおける介護、医療における役割分担について共有をはかった ・経口抗がん剤の院外処方時における適正使用のための調剤薬局との連携 （適正使用のためのチェックシート（調剤薬局における服薬指導時に用 いる情報の提供）及びテレフォンフォローアップシート（服用状況・副作用 にかかる情報の当院へのフィードバック）の活用）（松江赤十字病院）</p> <p>・院外との連携体制はまだ構築できていない（益田赤十字病院）</p>
<p>(7) 集約化されている医療 や臨床研究等へのアクセスが 可能になっている</p> <p>数値目標</p>	<p>[23] 高度な医療等へのアクセスが可能 となる方法の検討を行う（県、拠点病 院）</p> <p>数値目標</p>	<p>・出雲圏域において「しまね治験ネット」を活用し、県立中央病院と連携 し治験の効率化と迅速化を推進（島根大学医学部附属病院）</p>	<p>・出雲圏域では「しまね治験ネット」を活用し、県立中央病院と連携して おり、さらなる治験の効率化と迅速化を図っている ・また、地域の医療機関へ向けて本院が行なっている先進的な医療につ いて広報誌を送付し、周知を図っている（島根大学医学部附属病院）</p> <p>・地域連携係が担当となり、セカンドオピニオン・紹介患者の受診調整及 び支援している ・ゲノム診療部を創設し体制整備、R2年1月がんゲノム医療連携病院に指 定（松江市立病院）</p> <p>・遺伝子パネル検査を導入し、先進医療、治験による治療に取り組む（松 江赤十字病院）</p>	

<p>がん医療</p> <p>4 患者やその家族の痛みやつらさが緩和され、生活の質が向上し</p> <p>数値目標</p>	<p>(8) がん診療に携わるすべての医療・介護従事者が患者とその家族の身体的・精神的・心理社会的痛みに対応できている</p>	<p>[24] 緩和ケアに係る研修会を行う(県、拠点病院)</p> <p>数値目標</p>	<p>・緩和ケア研修会の開催(拠点病院及び県医師会主催計6回) 修了者数: 医師142名、医師以外45名 ・松江市立病院地域連携講演会(7/19)、在宅緩和ケア多職種カンファレンス講演会(10/18、3/4)(松江市立病院)</p> <p>・ELNEC研修会(11/3~11/4)、市民公開講座(10/7)、地域連携講演会(7/19)、在宅緩和ケア多職種カンファレンス講演会(10/18、3/4)(松江市立病院)</p> <p>・島根県がん診療連携拠点病院がん看護研修(緩和ケア)、ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム(9/22-23)、がん看護におけるコミュニケーションスキルを磨く~患者の感情表出を促すツールNURSEをもちいて(6/2)(島根大学医学部附属病院)</p> <p>・PCAポンプ研修会、キャリアアップ研修がん看護コース(県立中央病院)</p> <p>・緩和ケアアドバイザー養成研修を県看護協会に委託(修了者数: 12名)</p>	<p>・緩和ケア研修会の開催(拠点病院主催計5回) 修了者数: 医師89名、医師以外42名(県・拠点病院)</p> <p>・医学部附属病院緩和ケア研修会を開催した(8/18) 受講者25名(医師22名、医師以外3名)(島根大学医学部附属病院)</p> <p>・がん診療連携拠点病院医療従事者研修会(7/25開催) ・在宅緩和ケア多職種カンファレンス研修会(R2・2/20開催) ・緩和ケア研修会(がんに携わる医療従事者のための研修会)(9/1開催)</p> <p>・ELNEC研修会(9/21・9/22開催) ・松江市立病院医療懇話会: 講演会(9/5開催) ・松江市立病院研究会(7/18開催)(松江市立病院)</p> <p>・緩和ケア研修会(10/27)、緩和ケア地域連携検討会(研修会)(1/30)の開催(松江赤十字病院)</p> <p>・国が定める「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」に基づく緩和ケア研修会を開催(県立中央病院)</p> <p>・緩和ケア研修会の実施(9/8)(浜田医療センター)</p> <p>・緩和ケアアドバイザー養成研修を県看護協会に委託(修了者数: 12名)(県)</p> <p>・島根県がん診療連携拠点病院がん看護研修(緩和ケア)の実施「ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム」(5/11~12) 受講者30名 「がん看護におけるコミュニケーションスキルを磨く~患者の感情表出を促すツールNURSEをもちいて」(12/1) 受講者25名(島根大学医学部附属病院)</p> <p>・緩和ケア研修会(10/27)、緩和ケア地域連携検討会(研修会)(1/30)、緩和ケア・がん看護基礎コース研修(5~12月)、がん看護におけるコミュニケーション研修(10/9)の開催(松江赤十字病院)</p> <p>・がん診療連携拠点病院医療従事者研修会(7/25開催) ・在宅緩和ケア多職種カンファレンス研修会(R2・2/20開催) ・緩和ケア研修会(がんに携わる医療従事者のための研修会)(9/1開催)</p> <p>・ELNEC研修会(9/21・9/22開催) ・地域連携医療従事者研修会(R2年1/23開催)(松江市立病院)</p> <p>・在宅PCAポンプ研修会 ・キャリアアップ研修がん看護コース(県立中央病院)</p> <p>※看護部や薬剤部にも確認されると良いと思います。 相談部門は、5-(12)-[33]と同様です。 ↓↓↓ ・がん相談員等研修会にMSWを参加させた。(H31年度: 7/7、12/7の計2回、延べ6名が参加)</p> <p>・薬剤師 日本緩和医療薬学会年会 ・看護師 緩和ケアアドバイザー養成研修 島根県がん診療連携拠点病院がん看護研修(緩和ケア)ファシリテーター 日本緩和医療学会学術集会 日本癌治療学会学術集会 日本がん看護学会学術集会 日本臨床腫瘍学会 緩和ケア アドバイザー 養育研修会(益田赤十字病院)</p>
		<p>[25] 医師以外で患者とその家族に関わる医療・介護従事者への緩和ケアに係る研修を行う(県、医療機関)</p>		

<p style="text-align: center;">がん医療</p> <p>4 患者やその 家族の痛み やつらさが緩和され、生活の質が向上し</p> <p style="text-align: center;">数値目標</p>	<p style="text-align: center;">数値目標</p> <p>[26] 緩和ケアを適切に提供する体制を強化する（医療機関）</p> <p style="text-align: center;">数値目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省緩和ケアチーム研修指定病院、緩和ケアセンター設置、緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会開催（松江市立病院） 苦痛スクリーニングを実施、緩和ケアセンター（緩和ケア病棟・チーム・外来）に1名のがん看護専門看護師、4名の緩和ケア認定看護師を配置、緩和ケアリンクナースの配置、がん看護外来、薬剤師外来の設置、日本緩和医療学会のセルフチェックプログラム参加（島根大学医学部附属病院） 苦痛スクリーニング実施、PCAポンプ使用体制を整備（県立中央病院） 緩和薬物療法認定薬剤師1名（益田赤十字病院） 	<ul style="list-style-type: none"> 苦痛のスクリーニングを外来・入院患者に実施した 2次スクリーニングを実施して苦痛への対応状況の確認と対応策を検討した 緩和ケアセンター（緩和ケア病棟・チーム・外来）に1名のがん看護専門看護師、3名の緩和ケア認定看護師を配置している 緩和ケアリンクナースを配置して定期的な情報交換を実施した がん看護外来を設置し、がん患者カウンセリングを実施した 薬剤師外来の設置や病棟薬剤師により医療用麻薬導入時などに服薬指導を実施した 緩和ケアチームの質の向上のため日本緩和医療学会のセルフチェックプログラムへ参加することにより、活動を評価した（島根大学医学部附属病院） <ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省緩和ケアチーム研修指定病院 緩和ケア地域連携バスを活用し、病診連携の充実や患者家族支援を図っている 緩和ケアセンターが中心となり、緩和ケアチーム・病棟・外来との連携を図っている 緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会を開催し、地域との連携推進のために院内・外の医療関係者間での事例検討・情報共有・意見交換を行っている（松江市立病院） <ul style="list-style-type: none"> 苦痛スクリーニングを実施 緩和ケアチームに1名のがん看護専門看護師、2名の緩和ケア認定看護師を配置、緩和ケア院内登録看護師の育成 専門看護領域　がん看護担当及び病棟・外来各所配置の認定看護師によりがん患者カウンセリングを実施（松江赤十字病院） <ul style="list-style-type: none"> 苦痛スクリーニングを外来化学療法室利用患者のみならず、質問票の使用を希望するすべての患者が利用できるように運用変更した 医療用麻薬の注射剤で疼痛コントロールをしている患者の外出・外泊、自宅退院に関してPCAポンプを使用する体制が整備されており、必要に応じて提供することができている 緩和ケアリンクナースの配置 がん看護外来設置 入院患者のオピオイドレスキュー自己管理の運用を強化拡大した（県立中央病院） <ul style="list-style-type: none"> がん性疼痛や鎮痛薬に関するポケットマニュアルを作成し、院内医療従事者へ配布した（益田赤十字病院） 	<ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア病棟において、ご遺族へのグリーフレターの送付を行っている。緩和ケア病棟でのデスクカンファレンス、緩和ケアチームによる一般病棟でのデスクカンファレンスを実施している（島根大学医学部附属病院） 個々の症例カンファレンスを定期的に多職種で行っている 在宅緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会での事例検討（2回開催）（6/27・12/12） 緩和ケアチームや緩和ケア病棟によるデスクカンファレンスの実施 遺族来院時の対応や遺族へのグリーフハガキの送付 緩和ケア病棟主催の遺族会の定期開催。（松江市立病院） <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、在宅緩和ケア適応ケースでの事例検討、デスクカンファレンスの実施。（松江赤十字病院） <ul style="list-style-type: none"> 認知症のあるがん患者や高齢で精査困難でがんの診断がつかない患者など個別の状況に応じて、主診療科と合わせて緩和ケアチームが介入して説明の補助や意思決定の支援、症状緩和を行っている 困難事例では必要に応じてデスクカンファレンスを実施して、今後のケアに活かせるように取り組んでいる（県立中央病院） <ul style="list-style-type: none"> デスクカンファレンス用紙を改正し、令和2年1月より運用開始した（益田赤十字病院）
	<p>[27] 個別の状況に応じた緩和ケアや、グリーフケアに対する取組について検討する（県、拠点病院等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアチームや緩和ケア病棟によるデスクカンファレンスの実施、遺族来院時の対応や遺族へのグリーフハガキの送付、緩和ケア病棟主催の遺族会の定期開催（松江市立病院） 遺族ケアワーキンググループを設置、グリーフレター送付予定（島根大学医学部附属病院） 必要に応じてデスクカンファレンスを実施（県立中央病院） 		

	<p>(9) 患者が望む場所で適切な緩和ケアを受けられている</p>	<p>★[28] 地域の緩和ケア提供体制の強化を図る（県、医療機関）</p> <p>数値目標</p>	<p>・緩和ケアネットワーク会議、緩和ケア従事者研修会の開催</p>	<p>・緩和ケアネットワーク会議、緩和ケア従事者研修会の開催（県）</p>
<p>がん医療</p> <p>4 患者やその家族の痛みやつらさが緩和され、生活の質が向上し</p> <p>数値目標</p>	<p>(10) 患者とその家族が、自分らしく生きるために治療や療養生活を自己選択し、その状況に満足している</p> <p>数値目標</p>	<p>[29] 意思決定支援のあり方や方策について検討する（県、拠点病院等）</p>	<p>・ACPワーキンググループを設置（松江市立病院）</p> <p>・終末期医療に係るガイドラインを作成（県立中央病院）</p> <p>・地域包括ケアシステム関係機関連絡会議（3/12）でACP取組事例を共有</p>	<p>・アドバンスケアプランニングについて、病院内研修、地域との定期的な緩和ケア地域連携カンファレンスなどで普及を図っている（島根大学医学部附属病院）</p> <p>・「ACPワーキンググループ」で事例検討や情報交換をしている</p> <p>・パンフレットを作成し、院内スタッフへの周知や外来へ配置したり、患者・家族へ配布し支援を行っている</p> <p>・「がん患者さんの意思を支えるワーキンググループ」で意思決定支援をしている（松江市立病院）</p> <p>・医療倫理コンサルテーションチームと連携による、医療チームの意思決定支援のサポートの実施</p> <p>・相談支援部門における意思決定支援の研修を実施し、がん患者支援の充実をはかっている</p> <p>・ACPの普及・啓発の推進にかかる協議・検討、市民を対象とした講座の開催などを行っている、「まっえアドバンス・ケア・プランニング普及・啓発推進協議会」に、複数診療科の医師が参加している（副会長、幹事）</p> <p>・告知における心理的負担軽減をはかるために、意思決定支援に専門領域看護師が関与している（松江赤十字病院）</p> <p>・救命のために最善の医療や措置を行ったにもかかわらず、死が不可避免になった患者に対する医療行為の開始・不開始、医療内容の変更、医療行為中止などの判断の道筋を示した終末期医療に係るガイドラインを作成。全職員に周知後使用開始されている</p> <p>・「共に治療について考えていくための質問紙」運用について検討中（県立中央病院）</p> <p>・緩和ケアチームにて、ACPIに関して院内検討を進めている（益田赤十字病院）</p>

【全体目標Ⅲ】尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

最終アウトカム	中間アウトカム	施策	H30(2018) の取組	R1(2019) の取組
<p>患者家族支援</p> <p>5 患者とその家族の治療や療養生活の悩みが軽減している</p> <p>数値目標</p>	<p>(11) 患者が相談できる環境があると感じている</p> <p>数値目標</p>	<p>[30] 県内のがん相談支援体制の強化のため、国が提唱する統括相談支援センター（がん患者家族サポートセンター）の運営を行う（県、島根大学医学部附属病院）</p>	<p>・がん患者家族サポートセンター運営を島根大学に委託</p>	<p>・がん相談員実務担当者会と連携し、相談員等研修会、ピアサポーター相談会・フォローアップ研修、就労支援、広報活動実施について、企画運営・情報共有の実施（島根大学医学部附属病院）</p>
		<p>[31] がん患者や家族に対して、がん相談支援センターを周知する（拠点病院の医療従事者）</p> <p>数値目標</p>	<p>・ホームページ、院内掲示、パンフレット、出前講座により周知（松江市立病院）</p> <p>・パンフレット・ホームページ、啓発イベントにより周知（松江赤十字病院）</p> <p>・リーフレット、院内モニターにより周知（島根大学医学部附属病院）</p> <p>・院内イベント、ポスター、市民公開講座、市民向け講座（出雲中央図書館、島根大学と協力）により周知（県立中央病院）</p>	<p>・ホームページの掲載、外来各病棟へのリーフレットの設置、院内モニターへの掲載を継続（島根大学医学部附属病院）</p> <p>・ホームページ・院内掲示・入院時に渡す「入院のご案内」等で紹介している</p> <p>・パンフレットを作成し、必要時に患者・家族に渡したり、受付にも設置</p> <p>・がん啓発イベント時には、病院来院者や一般市民の方々へパンフレット等を配布、パネル展示などを行い周知を図っている</p> <p>・がん関係の市民向け出前講座にがん専門相談員も同行し周知を図っている（松江市立病院）</p> <p>・パンフレット・ホームページ、ブログ、院内掲示・モニター、啓発イベント（病院まつり・カラコロ秋祭り）により周知活動を実施し、がん告知時に個別に紹介（松江赤十字病院）</p> <p>・【院内】院内イベントの際にがん相談支援センターのブース設置やチラシ配りを実施（看護の日、緩和ケアチーム会、市民公開講座など）院内ポスター掲示</p> <p>・【院外】市民公開講座にてブース設置やチラシ配りを実施。がん征圧月間イベントとして出雲中央図書館にて島大病院がん相談支援センターと市民向け講座を実施（県立中央病院）</p> <p>・ホームページ、院内掲示、広報誌、出前講座により周知（浜田医療センター）</p>
		<p>[32] 相談支援体制の広域連携を検討する（県・サポートセンター・拠点病院）</p>	<p>・島根県がん診療ネットワーク協議会がん相談実務担当者会（6/11、1/21）、鳥取県との共催による2019年度相談員研修企画協議（島根大学医学部附属病院）</p>	<p>・鳥取県、国立がん研究センターとの共催による相談員研修「相談対応の質保障を学ぶ」を開催（7/7）（参加者 島根県：13病院32名 鳥取県：8病院14名、他県1名）（島根大学医学部附属病院）</p> <p>・島根県がん診療ネットワーク協議会がん相談部会へ参加（松江市立病院）</p> <p>・がん相談員広域研修企画への参画（松江赤十字病院）</p> <p>・がん相談員実務担当者会（6/10、1/23）（県立中央病院）</p>

<p>患者家族支援</p> <p>5 患者とその家族の治療や療養生活の悩みが軽減している</p> <p>数値目標</p>	<p>★</p> <p>[33] 県内のがん相談に関わる相談員（MSW、看護師、心理士等）の資質向上を行う（県、サポートセンター、拠点病院等）</p> <p>数値目標</p>	<p>・がん相談員等研修会の開催（10/21） 参加者数：31名（13病院）</p>	<p>・鳥取県、国立がん研究センターとの共催による相談員研修「相談対応の質保障を学ぶ」を開催（7/7）（参加者鳥根県：13病院32名 鳥取県：8病院14名、他県1名） ・テレビ会議システムによるがん相談員等研修会 AYA世代がん患者家族の支援をテーマに開催（参加者17病院42名参加）（島根大学医学部附属病院）</p> <p>・がん相談員対象の島根県中央研修会開催への参画と研修への参加 ・緩和ケア研修会（9/1開催）への参加 ・国立がん研究センター認定がん専門相談員に2名のMSWが認定された ・がん相談支援センター相談員指導者研修修了（1名）（松江市立病院）</p> <p>・がん相談員研修会への参加（松江赤十字病院）</p> <p>・がん相談員向け研修の企画・運営（県立中央病院）</p> <p>・がん相談員等研修会にMSWを参加させた（H31年度：7/7、12/7の計2回、延べ6名が参加）（益田赤十字病院）</p>
	<p>[34]（再掲）相談支援体制の広域連携を検討する（県・サポートセンター・拠点病院）</p>	<p>（再掲 [32]）</p>	<p>（再掲 [32]）</p>
<p>数値目標</p> <p>(13) 患者や家族が正しい情報を得られている</p>	<p>★ [35] 患者や家族に様々な手段（ホームページ、SNS、しまねのがんサポートブック、がん関連図書等）により情報提供を行う（県）</p>	<p>・県ホームページ「しまねのがん対策」の情報更新、配布 作成部数：5,000部 ・「しまねのがんサポートブック」高額療養費制度の更新 ・県立図書館におけるがん関連図書整備(H30 158冊)累計2,056冊(H21～)</p>	<p>・県ホームページ「しまねのがん対策」のリニューアルを行った ・県立図書館におけるがん関連図書整備(H31 137冊)累計2,193冊(H21～) （県）</p>
	<p>★ [36] SNSは双方向の情報発信が可能である特性を生かし、患者や家族からの反応に対して、必要な対応を行います（県）</p>	<p>—</p>	<p>—</p>
	<p>[37] 科学的根拠に基づく情報提供を、わかりやすくかつ確実に行うよう努める（拠点病院等）</p>	<p>・ホームページに治療実績を掲載（松江市立病院）</p> <p>・がん情報センターの活用（インターネット・冊子等）や他の拠点病院との連携、医師や専門領域看護師等との連携による情報提供（松江赤十字病院）</p> <p>・国立がん研究センターがん情報サービス、静岡がんセンターよろず相談、県内拠点病院ホームページを活用した情報提供、一般向けのガイドラインを提示しながらの相談支援（島根大学医学部附属病院）</p> <p>・がん相談員による情報提供（県立中央病院）</p> <p>・サポートブックやがん情報サービス等による相談（益田赤十字病院）</p>	<p>・国立がん研究センターがん情報サービス、静岡がんセンターよろず相談、県内拠点病院ホームページを活用した情報提供の実施 ・一般向けのガイドラインを提示しながらの相談支援の実施（島根大学医学部附属病院）</p> <p>・ホームページに各診療科の治療実績を掲載している ・がん情報センターの活用（インターネット・冊子等）や他の拠点病院との連携、医師や専門領域看護師等との連携による情報提供（松江市立病院）</p> <p>・がん情報センターの活用（インターネット・冊子等）や、院内の医師、専門領域看護師等、または他の拠点病院との連携による情報提供や直接的支援を行っている ・お食事読本（がん治療中の食事内容等について患者に指導するもの）の作成（松江赤十字病院）</p> <p>・がん相談員として個々の状況にあった情報提供の実施（県立中央病院）</p> <p>・がん患者や家族向けの冊子を提供 ・がん相談支援センター内でのインターネット端末や図書を活用した情報提供 ・ホームページに院内がん登録報告書を掲載（浜田医療センター）</p> <p>・がん相談の際に、島根県がんサポートブックやがん情報サービスなどの公的な情報資源を活用し、適切な情報提供を心掛けている（益田赤十字病院）</p>

<p>患者家族支援</p> <p>5</p> <p>患者とその家族の治療や療養生活の悩みが軽減している</p> <p>数値目標</p>	<p>(14) 患者やその家族が、ピアサポートをうけることで悩みが軽減できている</p> <p>数値目標</p>	<p>★[38] ピアサポート（患者サロン・ピアサポーター相談）の充実に努める（県、サポートセンター、拠点病院等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者サロンの活動支援（松江市立病院） ・ほっとサロンとの連携による相談支援、ほっとサロン便り作成支援の実施（島根大学医学部附属病院） ・なごやかサロン、周知活動のため院内イベント実施（県立中央病院） ・ピアサポーター相談会（島根大学へ委託） 開催病院：松江市立、松江赤十字、県立中央病院、島根大学医学部附属病院、浜田医療センター、益田赤十字、安来第一、雲南市立、大田市立、隠岐（10病院） 開催回数：42回 相談者数39名（34組） ・がんピアサポーター活動を考える会（島根大学へ委託） 開催日程：5/15,7/3,10/3（3回） ・ピアサポーターフォローアップ研修（島根大学へ委託）（11/17） 参加者数：ピアサポーター14名、サロン関係者4名 ・ピアサポート養成研修会（厚生労働省委託事業）への参加（松江市立） 開催日程：2/9～10 参加者数：2名（患者と相談員のペア） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほっとサロンとの連携による相談支援、ほっとサロン便り作成支援 ・ほっとサロンの新たな取組みとして、「AYA世代がん患者交流会」「小児がん経験者の親の交流会」を開催 ・がんピアサポーター相談会 開催病院：松江市立、松江赤十字、県立中央病院、島根大学病院、浜田医療センター、益田赤十字、安来第一、雲南市立、大田市立、隠岐（10病院） 開催回数：39回 相談者数：52名（45組） ・がんピアサポーターフォローアップ研修（11/17） 参加者数：ピアサポーター16名、サロン関係者3名（島根大学医学部附属病院） ・ピアサポーター相談会開催への支援。（3回開催） ・患者サロンの活動支援（毎火曜定例会、学習会7回、カフェサロン開催等） ・AYA世代交流会開催への支援（1回）（松江市立病院） ・インターネット、ポスター掲示、院内放送等周知活動を行い、専門領域看護師、MSW等相談担当スタッフとの連携によるニーズ掘り起こし等、ピアサポーター相談会実施を支援している ・乳がん患者会の支援 ・患者サロンの活動支援 ・清音会（松江赤十字病院喉摘者会）の支援 ・あゆみ会（人工肛門保有患者の患者会）の支援（松江赤十字病院） ・ピアサポーター相談会開催(6回/年) ・なごやかサロン実施(毎月第2、4金曜)サロン周知活動のため絵手紙教室の開催や院内ホールにてイベントを実施（県立中央病院） ・がんサロン（ほっとサロン浜田、女性だけの会、サロンひまわり）の院内掲示による周知と活動支援（浜田医療センター） ・院内にがんサロンの開催会場を提供し、MSWも参加している。（毎週火曜日） ・H31年度は、がんサロンとがんピアサポーター相談会を共催とし、毎月第2火曜日にピアサポーターががんサロンに常駐することで、互いのメリットを生かした相談の場を設けることができた。（益田赤十字病院）
---	--	---	---	--

<p>患者家族支援</p> <p>5 患者とその家族の治療や療養生活の悩みが軽減している</p> <p>数値目標</p>	<p>(15) がん患者と家族のQOLが向上している</p>	<p>[39] がん患者の経済的問題の軽減やアピアランス支援などを行う（県、拠点病院等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的問題に関する相談支援（松江市立病院） ・ 医療費制度の情報提供や経済的問題の相談支援（松江赤十字病院） ・ 社会保障制度の情報提供（ウィッグ・補整下着助成制度も含む）、アピアランスケアについて看護専門外来と連携し情報提供（島根大学医学部附属病院） ・ アピアランス（外見）ケア講演会・相談会 開催日程：11/9 参加者数：24名 ・ ウィッグ、補整下着補助 ウィッグ 50人 補整下着 8人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アピアランス（外見）ケア講演会・相談会（11/30） 講師：【講演】 一般社団法人HWBPヘアウェアビューティープログラム 山岡 純三氏、今井 勇人氏 【個別相談】 松江市立病院がん化学療法看護認定看護師 山田 恵子氏 参加者数：6名 ・ ウィッグ、補整下着補助 ウィッグ 69人 補整下着 8人（県） ・ がんセンターの外来化学療法室での医療提供によって、日常生活を続けながらの治療を可能にすることで、QOLの向上につなげている ・ 経済的問題に関しては、医療相談係の担当者が対応・支援している ・ アピアランス支援については、乳がん看護認定看護師が窓口となり、がん患者全般に対応している ・ がんセンターの外来化学療法室にはパウダールームを設置し、アピアランスへの対応が可能な設備を備えている（松江市立病院） ・ がん治療に関連した医療費等の制度説明（一部の診療科では入院毎に相談員との面接を必須としている）や、経済的問題の相談支援、社会保障制度活用による個別支援を行っている ・ お手入れ読本の作成 ・ 脱毛中のケア、ウィッグに関する情報提供 ・ 補整下着に関する情報提供（松江赤十字病院） ・ 個々の相談に対応（県立中央病院） ・ がん専門相談員による経済的問題の相談支援やアピアランスケアについての情報提供（浜田医療センター） ・ がんサロンが主体となり、アピアランスケアに関する研修会を開催した ・ 毎月第4火曜日のがんサロン開催日には、がんサロンの働きかけでアピアランスケアの専門家が参加されている（益田赤十字病院）
	<p>(16) 【小児AYA】患者や家族が、相談できる環境が整っている</p>	<p>★ [40] 【小児AYA】小児AYA世代患者の実態把握を行い、施策を検討する（県、拠点病院）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ がん看護専門看護師を中心に情報提供や心理的サポートを実施（松江市立病院） ・ 小児がん患者実態調査（島根大学医学部に委託） 調査期間：2/12～3/15 対象病院：島根大学医学部附属病院 回答者数/送付者数：39名/74名 ・ AYA実態調査（島根大学医学部に委託） 調査期間：12/1～1/4 対象病院：松江市立、松江赤十字、県中、島大医学部附属、浜田医療センター、益田赤十字、安来市立、松江生協(8病院) 回答者数/送付者数：98名/227名 ・ 家族に対して小冊子を活用し情報提供（島根大学医学部附属病院） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島根県小児がん対策部会への参加 ・ 島根県AYA世代のがん対策部会への参加（島根大学医学部附属病院） ・ AYA世代患者については、がん看護専門看護師が中心となり、対象者への面談をし、情報提供や心理的サポートを行っている ・ AYA世代交流会開催への支援（1回実施）（松江市立病院） ・ がん相談支援センターにて情報提供を行っている（松江赤十字病院） ・ 子どもAYA世代サポートセンターの設置 ・ 小冊子を活用した情報提供の実施（島根大学医学部附属病院） ・ 事例があれば関係機関と調整する（県立中央病院） ・ 相談体制はあるが、対象患者がいないため未実施（益田赤十字病院）
		<p>[41] 【小児AYA】患者きょうだいのフォローや支援を検討する（県、拠点病院等）</p>		

	<p>(17) 【小児AYA】相談支援センターが患者やその家族の不安や悩みに対応できている</p>	<p>[42] 【小児AYA】小児・AYA世代患者の家族の付き添い支援を行う（島根大学医学部附属病院）</p>	<p>・入院児童等家族宿泊施設「だんだんハウス」の運営（島根大学医学部附属病院）</p>	<p>・入院児童等家族宿泊施設「だんだんハウス」の運営（島根大学医学部附属病院）</p>
		<p>[43] 【小児AYA】必要に応じて妊孕性温存のための施策の実施を検討する（県）</p>	<p>—</p>	<p>・AYA世代のがん対策部会（1/30） ・地域がん・生殖医療ネットワーク構築を考える会（2/5）@東京への参加 ・島根県がん・生殖医療ネットワーク会則の検討（県）</p>
	<p>(18) 【小児AYA】患者が療養生活において保育・教育を受けられる環境が整備されている</p>	<p>[44] 【AYA】療養中の高等教育のあり方について、関係機関と検討する（県）</p>	<p>—</p>	<p>・AYA世代のがん対策部会で、小児がん拠点病院の取組について情報収集（県）</p>
<p>患者家族支援</p> <p>5 患者とその家族の療養生活の悩みが軽減している</p> <p>数値目標</p>	<p>(19) 【働き盛り】患者が療養生活と仕事を両立できている</p> <p>数値目標</p>	<p>[45] 【働き盛り】がん患者の療養と職業生活の両立支援を推進する（県、拠点病院等、ハローワーク、産業保健総合支援センター等）</p>	<p>・就労支援ナビゲーターとの連携による就労相談会場（日程）：島根大学医学部附属病院（毎週木曜日） 島立中央病院（毎月第1,3水曜日） 相談者数：18名（ハローワーク出雲）</p> <p>・両立支援促進推進員による就労相談会場（日程）：松江市立（毎月第1水曜日） 松江赤十字（毎月第4水曜日） 島立中央病院（毎月第2水曜日） 相談者数：4名</p> <p>・浜田医療センターへ出張相談窓口を新設、がん情報提供促進病院個別訪問による周知（産業保健総合支援センター）</p> <p>・ホームページ、パンフレット、院内ポスター、電子掲示板による周知（松江市立病院）</p> <p>・院内モニターによる広報（島根大学医学部附属病院）</p>	<p>・ハローワーク出雲就職支援ナビゲーターとの連携による相談会開催（毎週木曜日10：00～12：00）がん患者利用者数：18名 ・島根県産業保健総合支援センター両立支援促進員による就労相談会（毎月第4木曜日13：00～16：00）がん患者利用者数：6名 ・院内モニター、ポスター掲示、リーフレットにより広報（島根大学医学部附属病院）</p> <p>島根県産業保健総合支援センターとの連携のもと、両立支援の相談窓口を開設し対応している（毎月第1水曜）</p> <p>・ホームページ・がん相談支援センターのパンフレットへの掲載、院内へのポスター掲示や電子掲示板での掲示で周知に努めている 相談者数：5名（松江市立病院）</p> <p>・就労支援ナビゲーターとの連携による就労相談会（毎月第3火曜日） ・両立支援促進員による就労相談会（毎月第4水曜日）の開催とともに、インターネット・院内掲示・放送による周知、MSWや専門領域看護師の連携による潜在的ニーズの掘り起こしを行っている（松江赤十字病院）</p> <p>・ハローワーク出張相談会の開催（毎月第1、3水曜） ・産業保健総合支援センター両立支援出張相談会の開催（毎月第2水曜）（島立中央病院）</p> <p>・産業保健支援センターと連携し、がん患者の療養と仕事の両立支援のための出張相談会を随時開催することとした。（H31年度：当院が関わった相談件数は1件） ・労働局が主催する両立支援チームにMSWが参加した。（H31年度：チーム会1回開催）（益田赤十字病院）</p> <p>・地域がん診療連携拠点病院にて看護管理職向け研修会、がん情報提供促進病院にて全職員向け研修会をそれぞれ実施し、出張相談窓口の存在や両立支援に係る周知を行った</p> <p>・両立支援促進員による出張相談窓口 島根大学医学部附属病院4/1～第4木曜日 益田赤十字病院4/1～随時開設 ・出雲ハローワークに連携依頼を行い、相談窓口の相互紹介をすることとなった</p> <p>・看護協会、医療ソーシャルワーカー協会、糖尿病療養指導士関連4団体に周知を依頼し、パンフレットの配布等に協力を得た</p> <p>・情報提供促進病院を対象として両立支援の実施状況をアンケート調査 ・患者用リーフレットを作成し、相談窓口について周知（島根県産業保健総合支援センター）</p>

<p>患者家族支援</p> <p>5 患者とその家族の治療や療養生活の悩みが軽減している</p> <p>数値目標</p>	<p>[46] 【働き盛り】事業主への両立支援を推進する（県、拠点病院等、島根労働局、産業保健総合支援センター等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県地域両立支援推進チームへの参加（島根大学医学部附属病院） ・産業保健総合支援センターとの勉強会（県立中央病院） ・島根県地域両立支援推進チームの活動を通じた「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」や治療と仕事の両立支援に取り組む事業者に対する助成金制度の周知、研修講師派遣、労働基準監督署が実施する研修会、説明会等で「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」等を周知（島根労働局） ・産業医・事業場担当者向け研修会の開催、事業場個別訪問による周知・普及（島根県産業保健総合支援センター） ・しまね☆まめなカンパニー登録制度 登録数：146事業所（31.3末） 	<ul style="list-style-type: none"> ・しまね☆まめなカンパニー登録制度 登録数：189事業所（R2.3末） ・浜田公共職業安定所主催のセミナーで、がん患者の就労支援について説明及び依頼を行った（8/27）（県） ・島根県地域両立支援推進チーム会議への参加（島根大学医学部附属病院） ・がん相談支援センターにて情報提供を行っている（松江赤十字病院） ・産業保健総合支援センター両立支援出張相談会の開催（毎月第2水曜）（県立中央病院） ・厚生労働省の作成したリーフレットを設置し周知を行った（益田赤十字病院） ・島根県地域両立支援推進チームの活動を通じ、「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」及び企業と医療機関の連携のためのマニュアルの周知を行うとともに、治療と仕事の両立支援に係る相談窓口や事業主向けの助成金制度について、周知、利用勧奨を行った ・事業者向けに島根労働局長メッセージを作成し、監督署が行う事業場への指導等の際に配布し、両立支援対策の必要性について周知・説明を行った（島根労働局） ・事業場個別訪問による周知、また、事業場における労働者教育を実施した ・産業保健研修会を定期的に開催。6、7月には両立支援をテーマとした研修を重点的に6回開催した ・働き方改革センターセミナーにおいて中小事業場を対象に両立支援を周知 ・局、基準協会と共催した衛生週間説明会にて周知 ・各圏域の事業主セミナーにて周知 ・事業場の産業看護職を対象に交流会を開催し、事例検討を含めて情報交換を行った ・事業場用リーフレットを作成し、無料の支援について周知（島根県産業保健総合支援センター）
	<p>★[47] 【働き盛り】がん患者の復職のモデルとなる取組を行い、その状況について患者や事業主に対し情報発信していく（県、ハローワーク）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・嘱託職員を雇用し情報発信（1名 H30.8～H30.11） 	<ul style="list-style-type: none"> ・嘱託職員を雇用し情報発信（1名 H31.4～R2.3）
<p>(20) 【働き盛り】患者の子供等の悩みが軽減できている</p>	<p>[48] 【働き盛り】県や拠点病院は働き盛りのがん患者の子ども等に対して必要な支援を検討する（県、拠点病院）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小児科医師、CLSを中心とした「子どもサポートチーム」で個別支援（島根大学医学部附属病院） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもAYA世代のサポートセンター」の設置 ・がんの親を持つ子ども達へ支援としてCLIMBプログラムを開催（島根大学医学部附属病院） ・子どもへの支援が必要となった場合は、関連する機関（学校・保健所）と連携し、対応している（松江市立病院） ・事例があれば関係機関と調整する（県立中央病院）

<p>がん教育</p> <p>6 県民が自分や身近な人ががんに罹患してもそれを正しく理解し、向き合っている</p> <p>数値目標</p>	<p>(21) 【高齢者】患者や家族の悩みが軽減できている</p> <p>(22) がんについて正しく理解している</p> <p>(23) 健康や命の大切さについて理解している</p>	<p>[49] 【高齢者】認知症等を合併した患者に対し必要な支援を行うため、国が策定するガイドラインをもとにその施策を検討する（県、拠点病院等）</p>	<p>—</p>	<p>・認知症ケアチームや緩和ケアチーム、精神科リエゾンチーム、栄養サポートチーム等の医療チームと病棟メンバー・院内外の関連部署・関連する多職種間での連携をし、対応している（松江市立病院）</p> <p>・認知症を合併したがん患者の治療に関して相談があった場合に、緩和ケアチーム、認知症ケアチーム、認知症対応力向上研修を修了した看護師が介入し、必要な支援を行う</p> <p>・認知症ケア委員会を設置し、必要な検討を行う（松江赤十字病院）</p> <p>・がん相談の場に限らず、あらゆる相談支援の場において認知症についても配慮して相談対応している（益田赤十字病院）</p>
		<p>★</p> <p>[50] 子どもの発達の段階を踏まえたがん教育を実施する（学校）</p> <p>数値目標</p>	<p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 125校（61.6%） ・中学校 68校（69.4%） ・高等学校 18校（50.0%） <p>【私立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校 3校 ・高等学校 4校 	<p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校91校（45.5%） ・中学校59校（62.0%） ・高等学校31校（79.5%） ・特別支援学校2校（11.8%） <p>【私立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校 2校 ・高等学校 5校
		<p>[51] 文部科学省が作成した資料や県の研修会を踏まえた校内研修を実施する（学校）</p> <p>数値目標</p>	<p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 13校（6%） ・中学校 7校（7%） ・高等学校 1校（3%） <p>【私立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校 1校 	<p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校8校（4.1%） ・中学校9校（9.8%） ・高等学校2校（6.9%） ・特別支援学校0校 <p>【私立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校 0校 ・高等学校 0校
		<p>[52] がん教育の外部講師を養成する（県）</p> <p>数値目標</p>	<p>・がん教育外部講師養成研修（3/3） 講師：東京女子医科大学教授 林 和彦氏 松本医院院長 松本 祐二氏 参加者数：79名</p>	<p>・がん教育外部講師養成研修（2/16） 講師：国立研究開発法人国立がん研究センター がん対策情報センター センター長 若尾 文彦 氏 参加者数：120名（県）</p>
		<p>[53] 学校ががん教育を子どもだけでなくその保護者へも公開して実施するための支援を実施する（県）</p> <p>数値目標</p>	<p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康教育研修や養護教諭部会において啓発、たより等による啓発 ・がん教育公開授業（12/18） 対象：浜田高等学校定時制課程 講師：NPO法人がんサポートかごしま 三好 綾氏 	<p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん教育研修会、養護教諭研修などにおいて啓発（実践校） ・出雲市立河南中学校のPTA教育講演会 対象：全校生徒、保護者、教職員 講師：NPO法人がんサポートかごしま 三好 綾氏 ・松江農林高等学校公開授業 ①対象：3年生（総合学科福祉サービス系列） 講師：看護師、がん経験者 ②対象：2年生（保健体育科 科目「保健」） 講師：保健師（県）

<p>がん教育</p> <p>6 県民が自分や身近な人ががんに罹患してもそれを正しく理解し、向き合っている</p> <p>数値目標</p>	<p>★ [54] がんにに関する情報発信を、SNSなど様々な手段を用いて確実にわかりやすく実施する（県）</p>	<p>・ 県ホームページで情報発信を行った</p>	<p>・ 県ホームページ「しまねのがん対策」のリニューアルを行った（県）</p>
	<p>[55] SNSは双方向の情報発信が可能である特性を生かし、県民からの反応に対して、必要な対応を行う（県）</p>	<p>—</p>	<p>—</p>
	<p>[56] がんにに関する情報発信を様々な関係者と一体になって実施する（県）</p> <p>数値目標</p>	<p>・ がん検診啓発サポーターが地域の健康講座や催事などで啓発及び情報発信を行った。 ・ 「しまね☆まめなカンパニー」について県のホームページに掲載した。 ・ がん征圧月間において関係団体と街頭キャンペーン等を実施した。（県）</p>	<p>・ がん検診啓発サポーターが地域の健康講座や催事などで啓発及び情報発信を行った ・ 「しまね☆まめなカンパニー」について県のホームページに掲載した ・ がん征圧月間において関係団体と街頭キャンペーン等を実施した（県）</p>